

総務常任委員会視察報告書

総務常任委員会委員長 奥村孝宏

1 日 に ち	令和4年10月26日(水) 10時00分～12時00分
2 視 察 先	神奈川県横浜市
3 参 加 者	委員長：奥村孝宏 副委員長：仙石三喜男 委員：片山竜美、城處裕二、吉田企貴、若林正人、石田浩司 消防長：加藤 繁 議会事務局長：河地孝彦
4 調 査 内 容	横浜市立太尾小学校区防災まちづくり連携について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	<p>太尾小学校は横浜市北部、人口362,122人の港北区にある。昭和51年に設立され現在児童数は738人、学校の西側には鶴見川が流れ、堤防より低い位置に学校がある。</p> <p>太尾小学校は、学校を拠点とした「防災まちづくり」を地域とともに進める取り組みを行い、その成果が評価され、昨年、第25回防災まちづくり大賞総務大臣賞及び令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。</p> <p>こうした特色のある取り組みが、本市における地域防災力向上の参考にしたいという目的で今回視察させていただいた。</p> <p>【主な質疑内容】</p> <p>質問：学校を拠点とした組織とはどのようなものか？</p> <p>回答：学校・保護者・地域が三位一体となって活動する組織で「太尾小学校地域防災拠点運営委員会」という。</p> <p>本部長は地域代表を務めるが、PTAや避難所でもある学校が常に連携をとり、「防災訓練」や「太尾小学校ふるさとまつり」等を通して、防災意識の向上を図っている組織である。</p> <p>質問：「太尾小学校ふるさとまつり」とはどのようなものか？</p> <p>回答：小学校で年に1回行われる夏祭りのようなもの。午後3時頃から始まり、照明に防災備蓄倉庫にある発電機や投光器を使ったり、防災用炊飯器で炊き出しを行ったりしている。</p> <p>地域の方や児童、保護者が参加する。また、PTAの他「お父さんの会」等も企画から参加しており、模擬店・防災劇場・盆踊り等も行われることから、地域住民の参加も多く、例年2,000～3,000人の参加がある。</p> <p>【所感、提言事項等】</p> <p>平成23年の東日本大震災を機に、行政の震災への取り組みが大きな転換点を迎えた時、防災拠点である学校と地域の連携が十分でないことが浮き彫りとなり、「太尾小学校区防災まちづくり連携」がスタートしたとのこと。</p>

当日、説明をいただいた「太尾小学校地域防災拠点運営委員会」の皆さんは、「学校運営協議会」にも属している元PTA会長が多く在籍し、特にリーダーはそれぞれの本部長・会長を兼務されていた。とにかく『地域の方々が熱い!』という印象であった。

こうした運営委員会の方々が中心となり、各自治会、学校、PTA、キッズクラブや地元消防団のほか、行政としては区役所の「子ども家庭支援課長」、「地域振興係長」、「消防署予防係長」が参与で参画し、組織構成されている。

学区の防災訓練も、11月に小学校の参観日と合わせて行うことで、子ども、保護者が参加する他、地域の方々も参加している。

さらに、自治会が未結成のマンションには、運営委員会のメンバーが訪ね、自治会そのものの結成をお願いに行っている。とのことで、まさに、自主自治組織である。

また、たいへん特徴的なこととして、自治会が管理する「太尾小支援ファンド」を立ち上げ、地域の方などから寄付を募り、避難所として学校予算で対応できない部分や備蓄品の補填等を地域で賄う事業を行っている。

横浜市の「まちとともに歩む学校」という方針に基づいて活動している。とのことだが、防災まちづくりの基本といえる市民自らが行動する「自主防災組織」の在り方は、多治見市としてもはっきり参考としていき、今後の地域防災力の向上に生かしたい。



横浜市立太尾小学校前にて

6 写 真 等



視察の様子

※視察先1件に1枚作成すること。